

付 録 I. 摂氏湿度表 (C)

摂氏	乾 球 示 度 と 湿 球 示 度 と の 差																						
	0	0.5	1.0	1.5	2.0	2.5	3.0	3.5	4.0	4.5	5.0	5.5	6.0	6.5	7.0	7.5	8.0	8.5	9.0	9.5	10.0		
湿	0	100	90	80	71	63	56	49	43	37	32	28	23	20	16	13	10	8	6	4	2	1	
	1	100	90	81	72	65	58	51	45	40	35	30	26	22	19	16	13	11	9	7	5	4	
	2	100	90	82	74	66	59	53	47	42	37	33	29	25	22	19	16	14	11	10	8	6	
	3	100	91	83	75	67	61	55	49	44	39	35	31	27	24	21	19	16	14	12	10	9	
	4	100	91	83	75	69	62	56	51	46	41	37	33	30	26	24	21	19	16	14	13	11	
	5	100	91	84	76	70	64	58	53	48	43	39	35	32	29	26	23	21	19	17	15	13	
	6	100	92	84	77	71	65	59	54	49	45	41	37	34	31	28	25	23	21	19	17	15	
	7	100	92	85	78	72	66	61	56	51	47	43	39	36	33	30	27	25	23	21	19	17	
	8	100	92	85	79	73	67	62	57	52	48	44	41	37	34	32	29	27	25	23	21	19	
	9	100	93	86	79	74	68	63	58	54	50	46	42	39	36	33	31	28	26	24	23	21	
球	10	100	93	86	80	74	69	64	59	55	51	47	44	41	38	35	32	30	28	26	24	23	
	11	100	93	87	81	75	70	65	60	56	52	49	45	42	39	36	34	32	30	28	26	24	
	12	100	93	87	81	76	71	66	61	57	54	50	47	43	41	38	35	33	31	29	27	26	
	13	100	94	87	82	76	71	67	63	58	55	51	48	45	42	39	37	34	33	30	29	27	
	14	100	94	88	82	77	72	68	63	59	56	52	49	46	43	40	38	36	34	32	30	28	
	15	100	94	88	83	78	73	68	64	60	57	53	50	47	44	42	39	37	35	33	31	29	
	16	100	94	88	83	78	74	69	65	61	58	54	51	48	45	43	40	38	36	34	32	30	
	17	100	94	89	83	79	74	70	66	62	59	55	52	49	46	44	41	39	37	35	33	31	
	18	100	94	89	84	79	75	70	67	63	59	56	53	50	47	45	42	40	38	36	34	32	
	19	100	94	89	84	80	75	71	67	63	60	57	54	51	48	46	43	41	39	37	35	33	
示	20	100	95	89	85	80	76	72	68	64	61	58	55	52	49	47	44	42	40	38	36	34	
	21	100	95	90	85	80	76	72	68	65	62	58	55	53	50	47	45	43	41	39	37	35	
	22	100	95	90	85	81	77	73	69	66	62	59	56	53	51	48	46	44	42	40	38	36	
	23	100	95	90	86	81	77	73	70	66	63	60	57	54	51	49	47	45	42	40	39	37	
	24	100	95	90	86	82	78	74	70	67	63	60	58	55	52	50	47	45	43	41	39	38	
	25	100	95	90	86	82	78	74	71	67	64	61	58	56	53	50	48	46	44	42	40	38	
	度	26	100	95	91	86	82	78	75	71	68	65	62	59	56	54	51	49	47	45	43	41	39
		27	100	95	91	87	83	79	75	72	68	65	62	59	57	54	52	49	47	45	43	41	40
		28	100	95	91	87	83	79	75	72	69	66	63	60	57	55	52	50	48	46	44	42	40
		29	100	95	91	87	83	79	76	73	69	66	63	60	58	55	53	51	48	46	44	43	41
30		100	96	91	87	83	80	76	73	70	67	64	61	58	56	53	51	49	47	45	43	41	
31		100	96	91	87	83	80	76	73	70	67	64	61	59	56	54	52	50	48	46	44	42	
32		100	96	91	88	84	80	77	73	70	67	65	62	59	57	54	52	50	48	46	44	43	
33		100	96	92	88	84	80	77	74	71	68	65	62	60	57	55	53	51	49	47	45	43	
34		100	96	92	88	84	81	77	74	71	68	65	63	60	58	55	53	51	49	47	45	43	
35		100	96	92	88	84	81	77	74	71	68	66	63	61	58	56	54	51	49	47	46	44	

Ⅱ. わが国の養蚕主要10県の生産比較

(平成9年度「蚕業に関する参考統計」による)

順位	桑栽培面積 (ha)		養蚕戸数 (戸)		蚕種掃立て数 (箱)		収繭量 (t)		左の単位当たり収量			
									10a 当たり 収繭量 (kg)	掃立 て量 (箱)	1戸当たり	
											桑栽培 面積 (a)	収繭量 (kg)
1	群馬 % 5,680 41.2	群馬 % 2,320 36.8	群馬 % 29,700 40.4	群馬 % 1,026.1 40.8	徳島 25.6	茨城 7.6	山梨 319.5	栃木 639.5				
2	福島 1,260 9.1	福島 610 9.7	福島 7,300 9.9	福島 253.6 10.1	茨城 24.8	徳島 7.6	栃木 301.1	茨城 454.5				
3	埼玉 926 6.7	埼玉 520 8.2	埼玉 5,900 8.0	埼玉 198.2 7.9	埼玉 21.4	栃木 6.6	宮城 268.1	宮城 450.0				
4	長野 771 5.6	長野 430 6.8	長野 3,800 5.2	長野 139.5 5.5	栃木 21.2	埼玉 6.4	岩手 251.9	群馬 442.3				
5	山梨 639 4.6	徳島 210 3.3	栃木 3,800 5.2	栃木 121.5 4.8	福島 20.1	福島 5.8	群馬 244.8	福島 415.7				
6	栃木 572 4.1	山梨 200 3.2	茨城 2,800 3.8	茨城 90.9 3.6	長野 18.1	群馬 5.2	福島 206.6	岩手 397.5				
7	宮城 429 3.1	茨城 200 3.2	山梨 2,200 3.0	山梨 72.7 2.9	群馬 18.1	長野 4.9	茨城 183.5	埼玉 381.2				
8	岩手 403 2.9	栃木 190 3.0	宮城 2,000 2.7	宮城 72.0 2.9	宮城 16.8	宮城 4.7	長野 179.3	山梨 363.5				
9	岐阜 403 2.9	岩手 160 2.5	岩手 1,800 2.4	岩手 63.6 2.5	岩手 15.8	岩手 4.5	埼玉 178.1	長野 324.4				
10	山形 383 2.8	宮城 160 2.5	徳島 1,800 2.4	徳島 60.7 2.4	山梨 11.4	山梨 3.4	徳島 112.9	徳島 289.0				
その他	2,334 16.9	1,310 20.8	12,400 16.9	416.9 16.6	17.9	5.3	178.2	318.2				
全国	13,800 100	6,310 100	73,500 100	2,515.7 100	18.2	5.3	218.7	398.7				

注. 10a当たり収繭量は栽植面積より割り出した。

Ⅲ. 指定蚕品種の概要

昭和51年10月 現在

品 種 名	告 示 年 月	選 出 育 成 者	化 性	系 統	幼 色		繭 色	繭 形	ち ぢ ら	
					体	斑 紋				
太平 × 長安	21. 6	片倉	2化性	日支	交雜種	淡赤系, 青系混		白色	だ円に浅括れ俵形を混	普通
鈴峰 × 白雅	27. 8	龜山	"	日支欧	"	青系		"	"	"
春月 × 宝鐘	29. 8	カネボウ	"	日支欧	"	"		"	浅括れだ円形	"
日124号 × 支122号(太)	30. 8	国	"	日支	"	"		"	長だ円形	普通もしくははや粗
陽光 × 麗玉	34. 8	昭栄	"	日支欧	"	"		"	だ円形	普通
共栄 × 新白	40. 8	品研	"	日支欧	"	青系に淡赤系を混		"	"	"
春嶺 × 鐘月	43. 8	カネボウ	"	日支欧	"	青系		"	長だ円形, 浅括れ俵形混	"
妙峯 × 麗月	44. 8	群馬県	"	日支欧	"	淡赤味のある青系		"	だ円形, 長だ円形混	"
万 × 代	44. 8	埼玉県	"	日支	"	青系, 淡赤系混	形, 代は限性斑紋	"	長だ円形	"
郡春 × (豊栄)	44. 8	ゲンゼ	"	日支欧三元	"	青系	形	"	だ円形, 長だ円形混	"
同栄 × 紅白	45. 10	品研	"	日支欧	"	青系に淡赤系を混	形, 紅白は限性斑紋	"	短だ円形	"
日134号 × 支135号	45. 10	国	"	日支	"	青系	形	"	長だ円形	"
千春 × 万花	45. 10	片倉	"	日支	"	青系に淡赤系を混	"	"	だ円形, 浅括れ俵形混	"
新宝 × 長和	45. 10	高原社	"	日支	"	青系にややくすんだ淡赤系を混	形, 長和は限性斑紋	"	長だ円形	やや粗
神輝 × 綾宝	46. 10	神栄	"	日支欧	"	青系	形	"	"	普通
日136号 × 支131号	47. 10	国	"	日支	"	青系であるが淡赤系を混ざることがある。	形, 支131号は限性斑紋	"	浅括れ俵だ円混	"
(日138号 × 支138号 日139号 × 支139号)	49. 10	国	"	日支四元	"	青系, 淡赤系混	形, 姫, 支138号, 支139号は限性斑紋	"	だ円浅括れ俵形混	"
万栄 × 芳花	49. 10	片倉	"	日支	"	青系	形	"	だ円形に浅括れ俵形をわずかに混	"
郡豊 × 秀玉	49. 10	ゲンゼ	"	日支	"	"	"	"	長だ円形	"
(朝日 × 東海)	51. 10	品研	"	日支欧四元	"	淡赤系	形, 東, 海は限性斑紋	"	だ円形	"
日140号 × 支140号	51. 10	国	"	日支	"	青系	形, 姫, 日140号, 支140号とも限性斑紋	"	だ円形, 浅括れ俵形混	やや密

春蚕に適するもの

品 種 名	告 示 年 月 日	選 育 成 者	化 性	系 統	幼 色		虫 斑 紋	繭 色	繭 形	ち ぢ ら
					体	色				
錦 秋 × 鐘 和	30. 1	カネボウ	2化性	日支 交雜種	青系であるがわずかに淡赤系を混ざることがある。	形	白色	浅括れだ円形	普通	
日124号 × 支124号	30. 12	国	"	日支 "	青系	"	"	浅括れ長だ円形	"	
郡 光 × 万 里	32. 3	グンゼ	"	日支 "	青系に淡赤系を混ざる。	"	"	長だ円形に浅括れ俵形を混	"	
豊 年 × 研 白	33. 3	品 研	"	日支欧 "	"	"	"	だ円形	"	
秋 光 × 竜 白	39. 2	片 倉	"	日支 "	"	"	"	浅括れ俵形	"	
豊 山 × 銀 光	40. 2	カネボウ	"	日支 "	青系であるがまれに淡赤系を混	"	"	だ円形	"	
栄 山 × 豊 秋	41. 3	千曲社	"	日支 "	青系	姫	"	長だ円形に浅括れ俵形を混	"	
日132号 × 支132号	43. 2	国	"	日支 "	"	形	"	長だ円形	"	
(日128号(改) × (支133号	44. 3	国	"	日支欧 四元	青系と淡赤系混	"	白色に淡藍色混	浅括れ俵形, 長だ円形混	"	
(日133号										
(浅 嶺 × (香 玉	44. 3	長野県	"	日支四元 "	青系	"	白色	長だ円形, 浅括れ俵形混	"	
郡 秋 × 秀 月	45. 2	グンゼ	"	日支 "	"	"	"	長だ円形	"	
み の × た か ら	45. 2	岐阜県	"	日支欧 "	"	"	"	長だ円形に浅括れ俵形を混	"	
白 宝 × 昭 玉	46. 2	昭 栄	"	日支 "	"	形であるがまれに姫を混ざることがある。	"	長だ円形	やや粗	
神 鈴 × 秋 宝	46. 2	神 栄	"	日支欧 "	"	形	"	"	普通	
(日132号 × (支132号	47. 3	国	"	日支欧 四元	"	"	"	長だ円形に浅括れ俵形を混	"	
(日135号										
深 山 × 玲 光	47. 3	ユニチカ	"	日支欧 "	青系に淡赤系を混ざることもある。	"	"	長だ円形	"	
あ ゆ ち ら × ゆ た か	48. 3	愛知県	"	日支欧 "	青系	"	"	だ円形, わずかに浅括れ俵形を混	"	
(伊 郡 × (秋 星	48. 3	大竜社	"	日支四元 "	"	"	"	長だ円形	やや粗	
(飛 鶴 × (黎 明	49. 3	群馬県	"	日支四元 "	"	"	"	"	普通	
(筑 波 × (東 海	49. 3	品 研	"	日支欧 四元	青系に淡赤系を混	形, 東, 海は限性斑紋	"	だ円形	"	
日137号 × 支137号	49. 3	国	"	日支 "	青系であるが淡赤を混ざることがある。	形, 支137号は限性斑紋	"	"	"	
(昭 華 × 新 生	50. 2	昭 栄	"	日支三元 "	青系	形	"	だ円形に浅括れ俵形を混	"	
(武 蔵 × (溪 流	50. 2	埼玉県	"	日支欧 四元	青系に淡赤系を混	"	"	だ円形	"	
(美 蓉 × (東 海	51. 3	品 研	"	日支欧 四元	青系にわずかに淡赤系を混	形, 東, 海は限性斑紋	"	"	"	
万 光 × 大 白	51. 3	片 倉	"	日支 "	青系	形, 大白は限性斑紋	"	だ円形に浅括れ俵形をわずかに混	"	
錦 花 × (瑞 鐘	51. 3	カネボウ	"	日支三元 "	"	形, 鐘は限性斑紋	"	だ円形	"	

夏 秋 蚕 に 適 す る も の

IV - 1. 主 な 夏 秋 蚕 稚 蚕 用 桑 育 成 法

名称	用途別	供用桑園	春 蚕 期	夏 蚕 期	秋 蚕 期	晩 秋 蚕 期	
摘 稍 分 枝 摘 法	(1) 初 秋 蚕 用	春刈 桑園	—	—	掃立て40日前、矮小枝間引、残条稍端約15cm剪除、再発新稍より稚蚕用桑を摘葉	—	
	(2) 晩 秋 蚕 用	夏刈 桑園	稚蚕期収穫伐採	—	—	掃立て30日前、前記(1)に準じて摘稍分枝処理を行う。再発新稍より稚蚕用桑を摘葉	
全 芽 育 成 法 (埼 玉 県 岡 部 式)	(3) 初 秋 蚕 用	春 刈 桑 園	—	—	掃立て13日前と18日前の2回に分けて全芽育成手術を行う。即ち矮小枝間引、残条稍端約15cm剪除上半部摘葉、再発新稍を稚蚕期全芽収穫	—	
			伐採	—	—	—	
摘 稍 分 枝 全 芽 育 成 法 (長 野 県 二 段 式 摘 稍 法) (郡 是 製 米 宮 辺 式)	(4) 春 晩 秋 蚕 用	夏 刈 桑 園	<div style="border: 2px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; text-align: center;"> 全芽育成法実施上の注意 1. 桑園を甲乙2部に分け、施行期日を別にして行う。 2. 施行の際、既に2,3発芽したものとがあるときはこれを必ず摘去する。 </div>				—
							伐採
古 条 全 芽 数 枚 摘 法 (長 野 県 式)	(6) 春 夏 晩 秋 蚕 用	古条畦 (前年春刈畦)	—	再発新稍より、稚蚕用桑を全芽または摘葉収穫、収穫後古条を地上50～60cmの高さで伐採	古条稍端2,3芽分枝伸長	1～2齢期、最大光葉以下7,8枚摘葉	
			伐採	1～2齢期最大光葉以下7,8枚摘葉	—	掃立て40日前、前記(1)に準じて摘稍分枝処理を行い、2～3齢期最大光葉以下10枚枚摘葉	
残 条 式 全 芽 育 成 法 (群 島 県 式)	(7) 春 初 晩 秋 蚕 用	残条畦 (前年春刈畦)	—	稚蚕または壮蚕期かき芽収穫後株当たり5～8本古条立通し(先端30cm内外剪除)	再発新稍を1齢先端5,6葉、2齢先端6,7葉、3齢基部1,2葉付全芽収穫。後1,2齢収穫。芽は基部1,2葉残して切直す	再々発芽の全芽収穫 (ただし古条1本当たり2,3芽残置)	
			伐採	—	1齢～3齢期数枚摘	1齢～3齢期数枚摘	

備 考 1. (6) 古条畦と春刈畦、(7)の残条畦と春刈畦は年々交代循環する。
 2. * 石灰N900g、温湯(50℃)180、2～3分攪拌後2時間有蓋放置、上澄液10株当たり約1.80散布
 農林省蚕糸局(1951)技術資料

IV - 2. 主 な 化 学 肥 料

(「土・肥料」熊田・大平・原田・山根による)

種 類	主成分の 化学式	主 な 性 質				
		成 分	副 成 分	生理的反応	化学的反応	
窒 素 質 肥 料	硫酸アンモニア (硫安)	(NH ₄) ₂ SO ₄	アンモニア態窒素 20.5%以上	硫 酸	酸 性	中 性
	塩化アンモニア (塩安)	NH ₄ Cl	アンモニア態窒素 25.0%以上	塩 素	酸 性	中 性
	石 灰 窒 素 尿 素	CaCN ₂ CO(NH ₂) ₂	窒素 21.0% 窒素 43.0%以上	石 灰 炭 酸	アルカリ性 中 性	アルカリ性 中 性
	硝酸アンモニア (硝安)	NH ₄ NO ₃	アンモニア態窒素 16.0%以上 硝酸態窒素 16.0%以上	—	中 性	中 性
り ん 酸 質 肥 料	過りん酸石灰	Ca(H ₂ PO ₄) ₂ · H ₂ O	可溶性りん酸 16.0~20.0%	硫酸・石灰	中 性	酸 性
	重過りん酸石灰	CaSO ₄ ·2H ₂ O	可溶性りん酸 30.0~45.0%	—	中 性	酸 性
	よう成りん肥		く溶性りん酸 18.0~20.0%	マグネシウ ム・けい酸・ カルシウム	アルカリ性	アルカリ性
	焼成りん肥		く溶性りん酸 37.0%	けい酸・ カルシウム	アルカリ性	アルカリ性
カ リ 質 肥 料	塩化カリ	KCl	水溶性カリ 50.0~60.0%	塩 素	酸 性	中 性
	硫酸カリ	K ₂ SO ₄	水溶性カリ 48.0~50.0%	硫 酸	酸 性	中 性
石 灰 質 肥 料	生 石 灰	CaO	アルカリ分 80.0%以上	—	—	アルカリ性
	消 石 灰	Ca(OH) ₂	アルカリ分 60.0%以上	—	—	アルカリ性
	炭酸カルシウム (炭カル)	CaCO ₃	アルカリ分 53.0%以上	—	—	アルカリ性
複 合 肥 料	配 合 肥 料	2種類以上の肥料を機械的に混ぜ合わせたもの。				
	化 成 肥 料	窒素・りん酸・カリのうち二つ以上の成分を合わせ、化学的操作を加え製造したもの。				
	固 形 肥 料	硫安・過りん酸石灰・カリ塩などを原料にし、泥炭を加えて粒状などにしたもの。				
	吸 着 肥 料	窒素・りん酸・カリのうち二つ以上の成分を、泥炭・ベントナイト・ケイソウ土・ゼオライト・くん炭・ぬか類・油かす類に吸着させたもの。				
	液体複合肥料	窒素・りん酸・カリのうち二つ以上の成分を含有する水溶液。				
そ の 他 の 肥 料 成	けい酸質肥料(けいカル)…	けい酸30.0~50.0%・石灰約40.0%・苦土約5.0%、アルカリ性				
	苦土質肥料(マグネシウム肥料)・マンガン質肥料・ほう素質肥料・微量元素複合肥料など					

IV - 3. 桑の主な病気の防除法

病原体	病名	発病部位	発病時期	防除法
糸状菌 (かび)	白紋羽病	根	年間	発病地は罹病根を除去し、クロピクリンくん蒸剤により土壌消毒をする。発病のおそれある苗木は根部をチオファアネートメチル水和剤500倍液に10分間浸漬消毒する。
	紫紋羽病	根	年間	白紋羽病の場合とはほぼ同様であるが、石灰の多様も有効である(病苗の疑いあるときは45℃、20～30分間の温湯消毒を行う)。
	白絹病	根・株	夏	多湿地によく繁殖するため、排水をはかる。育苗地では石灰窒素60～70cm/10a散布土壌と混和し、多発地ではクロールピクリンによる土壌消毒を行う。
	こうやく病	枝	年間	誘因となるカイガラムシの駆除を行う。
	胴枯病	枝	春 (4～6月)	PCP銅・銅水和剤100倍液を10月中旬頃と11月中旬頃の2回散布する。晩秋蚕期にホルムアルデヒド剤(農業用ホルマリン)の12～14倍液を枝条全面に散布する。また、チオファアネートメチル水和剤(登録中)400～800倍液の8月散布が有効である。
	芽枯病	枝	春 (4～6月)	有効な薬剤はみいだされていないが、中間伐採枝条の枯れ込み防止には初秋～晩秋の切返しに有効である。
	赤渋病	新梢	夏～秋 (6～9月)	蚕期のあい間にアンバム剤(ダイセンステスレス)1,000倍液を1～3回散布する。
	褐斑病	葉	夏	病葉を早期摘除焼却、発病は湿度と関連し低湿地に多発、通風をよくし密植を避ける。
	輪斑病	葉	夏 (6～7月)	発生初期から1ヵ月間、葉裏に、チオファアネートメチル水和剤(1000～1500倍)・ペノミル(ペンレート)水和剤(2000倍)散布、秋から冬期落葉土中にすき込むか集めて焼却、立通桑は伝染源となる。
	裏うどんこ病	葉	夏～秋 (8～10月)	冬期に1回だけ枝条および株面にアンバム剤(ダイセンステスレス)の100～200倍液を散布し、子のう殻を殺滅する。発病の初期にアンバム剤、DCP水和剤、同乳剤、同乳剤、ピナバクリル水和剤、キノキサリン系水和剤およびチオファアネートメチル水和剤の1,500倍液を散布する。
細菌	よごれ葉病	葉	夏～秋	チオファアネートメチル水和剤の1,500倍液を発生初期に散布する。
	すす病	葉	夏～秋	本病の発生を助長するシナノコナジラミなどを駆除する。
	縮葉細菌病	葉・新梢	春～夏 (5～7月)	発病の初期からストレプトマイシン・オキシテトラサイクリン混合剤(登録中)を適回数回、葉および新梢に散布する。
	枝軟腐病	枝・幹	春～夏	罹病枝条、枯死株を除去、焼却、晩秋過度の中間伐採を行わない。必ず残葉し、落葉後枝条先端部を切返す。伝染病となる家畜糞尿、蚕糞糞尿などの地表施用を止める。フェノール・スルホン酸乳剤(ヨネポ)500倍液散布。
ウイルス	モザイク病	全身	春～秋 (4～10月)	センチュウの媒介によって土壌伝染する病原ウイルスもあるので殺センチュウ剤で土壌消毒する。
マイコプラズマ 様微生物	萎縮病	全身	年間	媒介昆虫であるヒシモンコバエを駆除する。桑の脱苞時から第1開葉時から第1開葉時にかけての越冬卵と第2世代虫からの駆除に重点をおいて薬剤散布する。

IV - 4. 桑の主な害虫の防除法

害虫名	加害部	多発時期	適用殺虫剤
クワヒメゾウムシ	芽および新梢	4～6月	PAP粉剤(3%)を桑園10a当たり3～4kg,またはPAP,DDVP,サリチオン,DDVP・CYAP,MEP,MEP・EDBの各乳剤の1,000～2,000倍液を春の萌芽期および夏切後に散布。
クワノコキクイムシ	"	5～9月	PAP乳剤の800～1,000倍液を散布。
クワハムシ	主として若葉	4～5月	DDVP,DDVP・DEPの各乳剤の1,000倍液を枝葉に散布して成虫を,またメカルバム・DEP,PAPの各粉剤を地表面および枝葉に10a当たり3～5kg散布して桑葉を食害している成虫および地中から羽化脱出してくる成虫を駆除する。
クワノミハムシ ヒメケブカサルハムシ		4～6月 6月	
クワカミキリ トラフカミキリ	枝幹	6～8月 6～9月	MEP乳剤(サツチュウコートS)の50倍液,MEP・EDB乳剤の100倍液,MPP乳剤(T-7.5バイセット乳剤)の200～300倍液を夏切り後,または晩秋蚕終了後に散布。
キボシカミキリ	枝幹	6～7月	MEP乳剤(サツチュウコートS)の50倍液,MEP・EDB乳剤の100倍液,MPP乳剤(T-7.5バイセット乳剤)の200～300倍液を夏切り後,または晩秋蚕終了後に散布。 ポーベリア ブロンニアアテイ剤(バイオオサ・カミキリ)類白色シートを成虫発生初期に1樹当たり1本,地際に近い主幹の分枝部分等に架ける。
クワヒメハマキ	芽および葉	5～6月	DDVP乳剤またはDEP乳剤の1,000～1,500倍液が用いられている(未登録)。
モンシロドクガ	"	4～7月・9月	DDVP乳剤1,000～2,000倍液,DDVP・CYAP乳剤の1,000倍液またはDEP・MTMC,メカルバム・DEP,PAP・DEPの各粉剤を10a当たり3～5kg散布。
クワエダシヤク	"	4～5月・7～8月	DDVP乳剤1,000倍液散布。
アメリカシロヒトリ	"	5～6月・8～9月	DDVP乳剤,DEP乳剤の1,000～2,000倍液,DEP,メカルバム・DEPの各粉剤を10a当たり3～5kg散布。
クワゴマダラヒトリ	"	4～5月・9～10月	DDVP乳剤またはDEP乳剤の1,000倍液が用いられている(未登録)。
クワノメイガ	葉	6～9月	サリチオン乳剤,APC水和剤,BRP乳剤,DDVP乳剤,DDVP・CYAP乳剤,DDVP・DEP乳剤,DEP乳剤,DEP水溶液,PAP乳剤の各1,000～1,500倍液またはメカルバム・DEP,DEP・MTMC,PAPの各粉剤を10a当たり3～5kg散布。
ヒシモンヨコバイ	"	5～9月	カルベンホス水和剤,バミドチオン乳剤・液剤,APC水和剤,DEP乳剤,PAP乳剤,PHC水和剤の各1,000～2,000倍液またはメカルバム,メカルバム・DEP,DEP・MTMC,PAP,PAP・DEPの各粉剤を10a当たり3～5kg散布。
クワキジラミ	"	5～6月	DDVP乳剤1,000～4,000倍液,DEP乳剤,エストックス乳剤1,000～2,000倍液が用いられている(未登録)。
クワシロカイガラムシ	枝幹	5～8月	雌成虫にはマシン油乳剤(エチオンマシン油乳剤,マシン油乳剤,4種混合マシン油乳剤)の10～20倍液,または石灰硫黄合剤の6～10倍液,幼虫にはDDVP乳剤,PAP乳剤の1,000倍液またはマシン油乳剤の15～30倍液を散布する。
クワシントメタマバエ	頂芽	6～9月	6月中旬から7月中旬を目途に被害芽の発生前にDEP粉粒剤,メカルバム粉剤,メカルバム・DEP粉剤を10a当たり3～4kg地表面に散布し,地中から羽化脱出する成虫を駆除する。また,芯曲り芽の発現初期にDDVP乳剤の1,500～2,000倍液を散布して芽に食入している幼虫を駆除する。
クワノアザミウマ	葉	5～10月	DDVP乳剤またはDDVP・DEP乳剤の1,000～2,000倍液を散布。
ハダニ類	"	4～10月	キノキサリン系水和剤,BINAPACRYL水和剤,CPAS,BCPE水和剤,CPCBS水和剤,CPCBS(DCPM)水和剤,CPCBS乳剤,DDVP・DAEP乳剤の各1,000～1,500倍液またはメカルバム・DEP粉剤を10a当たり3kg散布する。
ネコブセンチュウ	根	4～9月	桑の植付前,または立毛(たちげ)中の桑園にDBCIP乳剤,DCIP乳剤の10倍液を点注,または1,000倍液を灌注する。施用薬量は原液換算量で10a当たり30程度,あるいはDBCIP粒剤,またはDCIP粒剤を10a当たり10kg程度土中にすきこむ。

V. 塩酸温度と比重との関係

温 度	比 重		
	即 浸 用	冷 浸 用	常 温 用
℃			
15	1.0750	1.1000	1.1100
16	1.0746	1.0995	1.1095
17	1.0743	1.0990	1.1090
18	1.0739	1.0986	1.1086
19	1.0736	1.0982	1.1081
20	1.0732	1.0977	1.1076
21	1.0729	1.0973	1.1071
22	1.0725	1.0968	1.1066
23	1.0722	1.0964	1.1062
24	1.0718	1.0959	1.1057
25	1.0715	1.0955	1.1052
26	1.0711	1.0950	1.1047
27	1.0708	1.0946	1.1042
28	1.0704	1.0941	1.1038
29	1.0701	1.0937	1.1033
30	1.0697	1.0932	1.1028
31	1.0691	1.0928	1.1023
32	1.0690	1.0924	1.1018
33	1.0687	1.0920	1.1014
34	1.0683	1.0915	1.1009
35	1.0680	1.0910	1.1004
36	1.0676	1.0906	1.0999
37	1.0673	1.0901	1.0995
38	1.0670	1.0897	1.0990
39	1.0666	1.0892	1.0985
40	1.0663	1.0888	1.0981
41	1.0659	1.0883	1.0976
42	1.0656	1.0879	1.0971
43	1.0652	1.0875	1.0966
44	1.0649	1.0870	1.0962
45	1.0645	1.0866	1.0957
46	1.0642	1.0861	1.0952
47	1.0638	1.0857	1.0948
48	1.0635	1.0853	1.0943
49	1.0632	1.0848	1.0938
50	1.0628	1.0844	1.0934

(農林水産省 蚕糸・昆虫農業技術研究所「蚕の飼育者便覧(未定稿)」より)